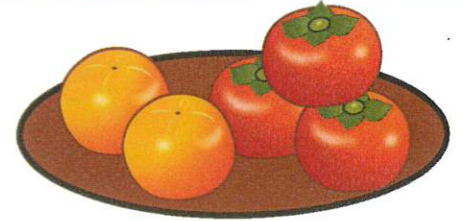


すっかり秋めいてきました。みなさまいかがお過ごしですか？
秋は駆け足で通り過ぎて、いつの間にか冬になりそうですね。
年の暮れがもうすぐの時期になりました。



当院に通院される患者様の半分以上は脊椎疾患による痛みです。
脊椎疾患とは、いわゆる背骨の変形や椎間板の変形、背骨の周りの靭帯の変形などによる椎間板ヘルニアや狭窄症、側弯症、すべり症、圧迫骨折などのことを言います。腰だけではなく、胸椎（胸の背骨）、頸椎（首の骨）の変形による疾患も多く、頸椎の変形が進むと、肩が痛い、手がしびれる、腕が痛いなどの訴えとなります。

今月号では、皆さんがよく受けておられる硬膜外ブロックについてご説明します。

処置室で、図1のように背中を出して横を向き、背中を丸くしている患者様の姿をよく見かけると思います。
あるいは、前回の9月号でお伝えしたように、レントゲンの部屋で、うつぶせになって行うことがあります。

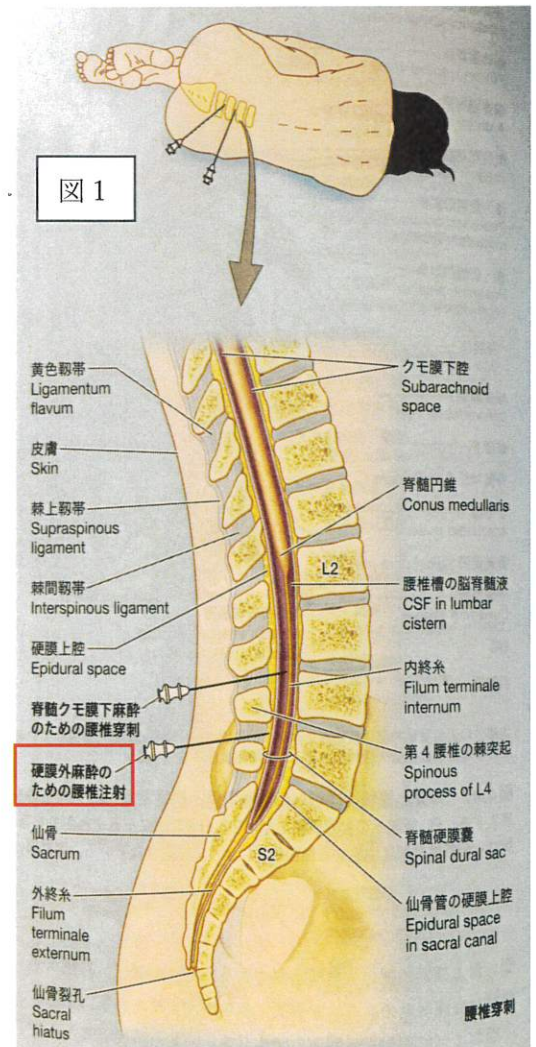
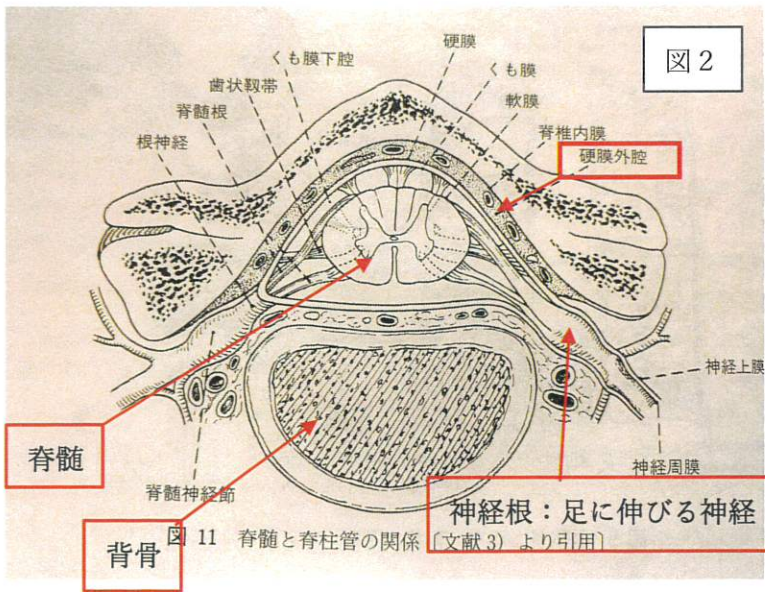


図2の中で、硬膜外と言われるスペースに麻酔の薬を入れます。麻酔の薬は脊髄や神経根（足に伸びる神経の根本）に効き、痛みを遮断すると共に、血流改善を起こします。ほんの少し奥に入ると、クモ膜下麻酔と言って、下半身に完全に麻酔をかけて手術を行うことができます。

また、硬膜外ブロックは、帯状疱疹による神経痛の治療に最も用いる方法です。腰だけではなく、胸部や頸部にも用います。今日の話は少し難しかったですか？